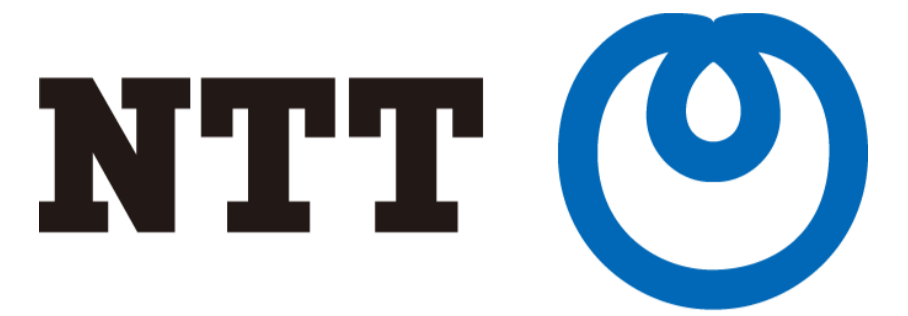


視点移動対応裸眼3D映像表示技術
少ない数のプロジェクタでなめらかな運動視差を実現する裸眼3D映像スクリーン

視点移動に対応した自然な裸眼3D映像視聴体験を従来よりシンプルな装置構成で実現できる技術です。

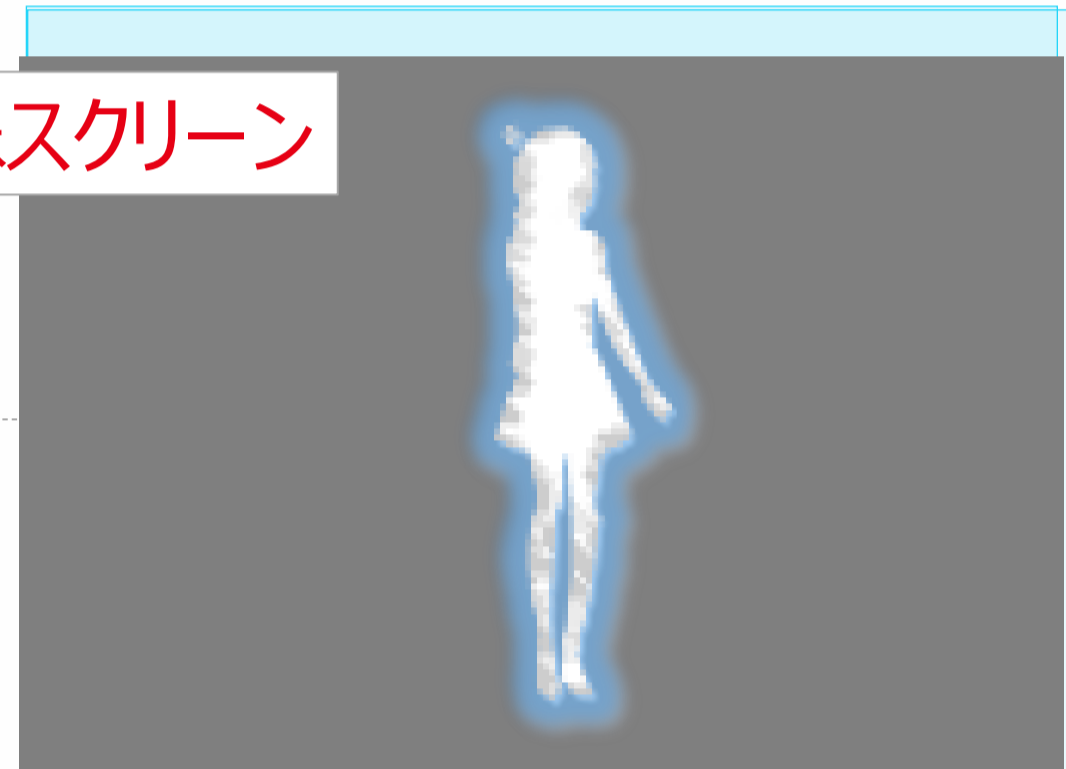


特長

- 多人数でもそれぞれの人の視点位置に応じた3D映像が視聴できます。
- 投影光を効率的に集光するスクリーンによって明るい映像表現が可能です。
- 従来手法よりも装置構成を簡略化できます。

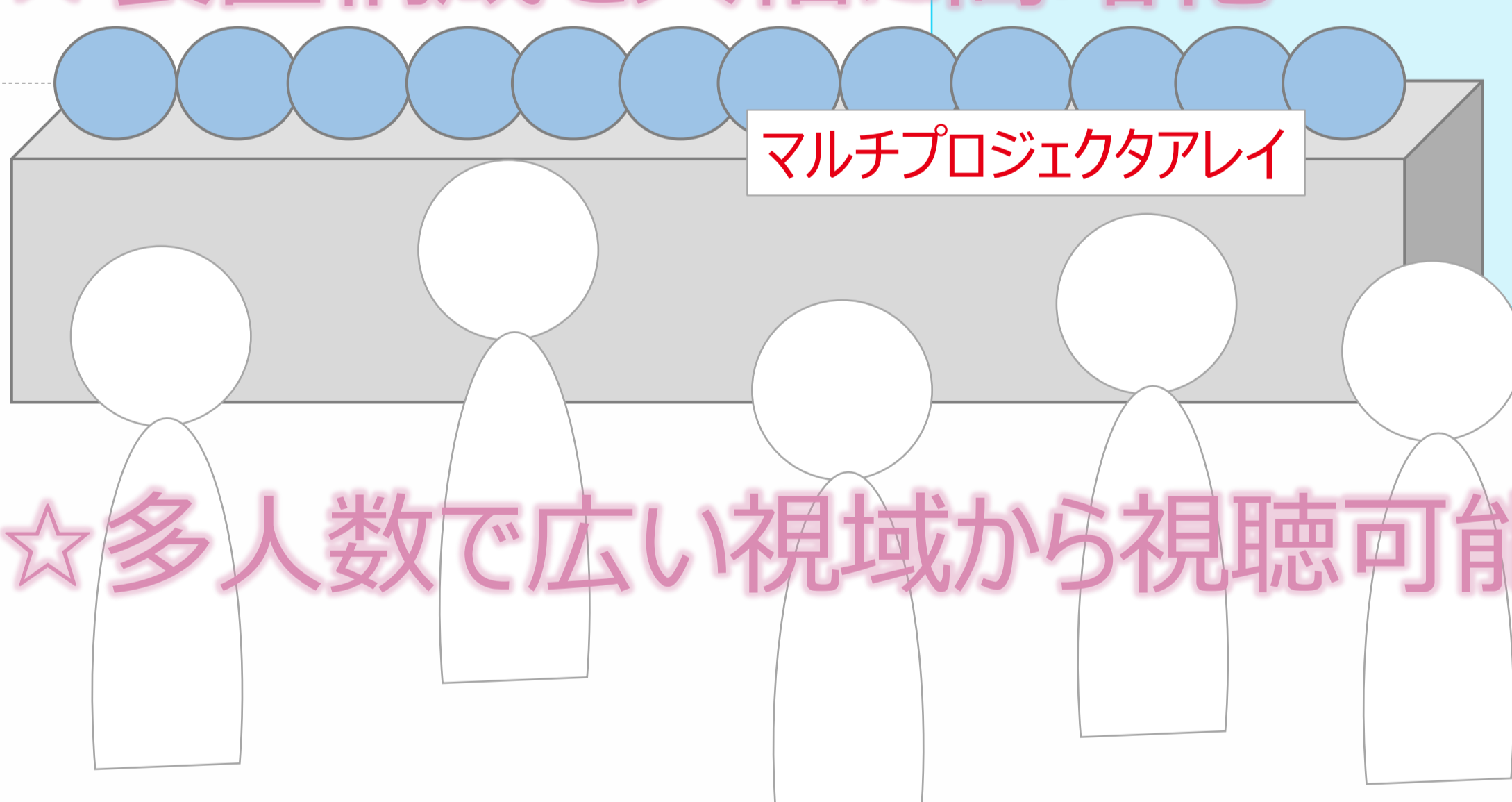
- 空間結像アイリス面型光学スクリーン
※東北大学との共同研究成果
- リニアブレンディング技術を用いた多視点映像投影
- MMT(MPEG Media Transport)による多視点映像同期再生

特殊スクリーン



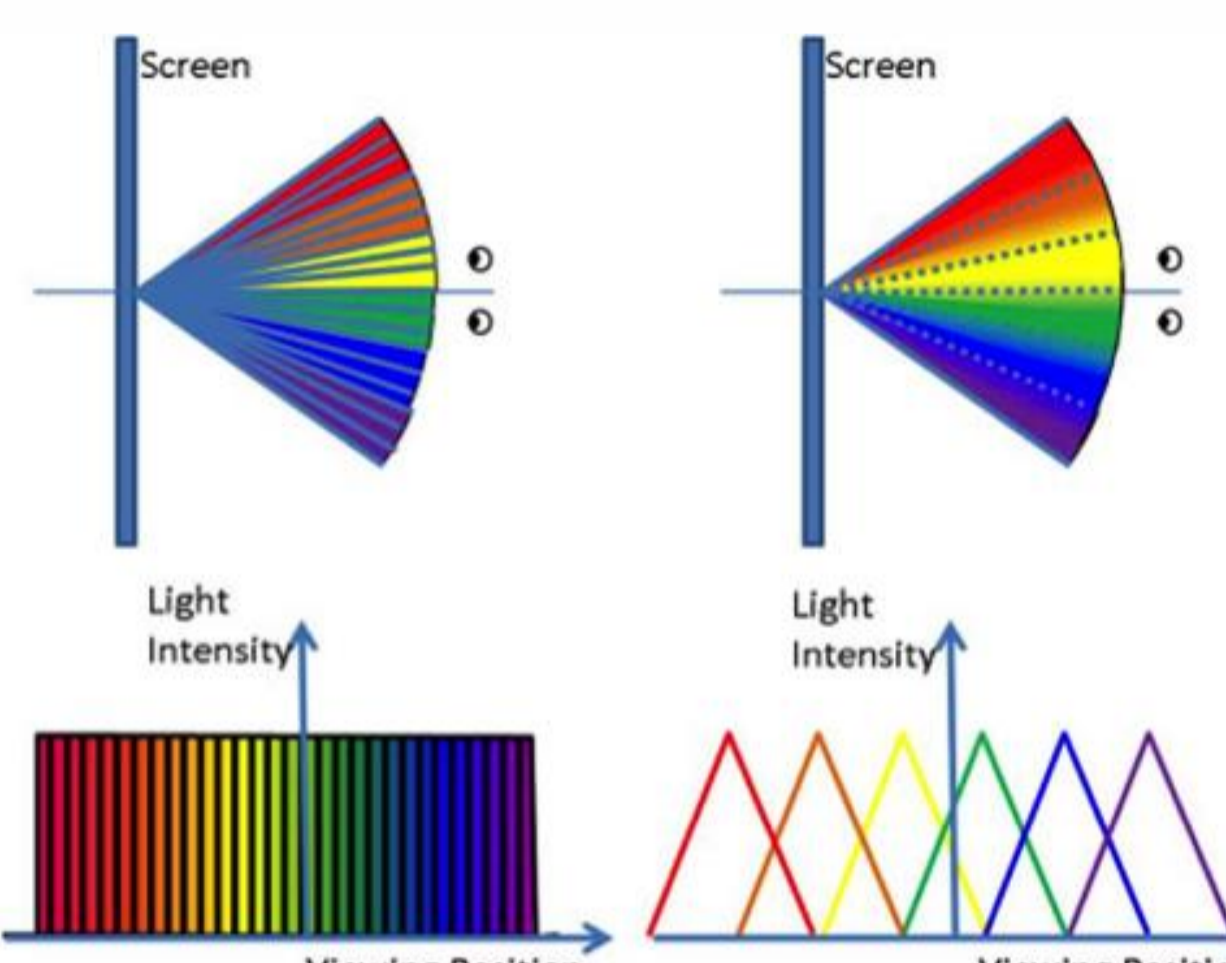
☆高輝度な3D映像表示

☆装置構成を大幅に簡略化



マルチプロジェクタアレイ

☆多人数で広い視域から視聴可能



従来手法（左）は膨大な数の投影装置を密に並べて視点毎の映像を投影していました。
本技術（右）では、隣り合う映像の重なりを利用して中間視点を補うため、投影装置の数を大幅に削減できます。

めざす未来

「あたかもその場に存在するかのような映像投影」をめざし、遠隔地の人とのコミュニケーションシステムや、バーチャルアイドルのライブイベント、アイキャッチなサイネージとしての活用等を目指しています。